

第8期介護保険事業計画に記載の内容				令和3年度(年度末実績)			
区分	現状と課題	第8期における具体的な取組	目標 (事業内容、指標等)	実施内容	自己評価 結果	自己評価 内容	課題と対応策
自立支援・介護予防・重度化防止	高齢者の中には、退職や身体機能の低下等を理由に、自宅に引きこもりがちになる方がいる。閉じこもりの状態が続くと、身体機能の低下を招き、要介護状態になるリスクが高まる。 高齢者となっても、地域で孤立することなく人とのつながりを持ち、地域活動に参加したり生きがいの持てる生活を送れるよう、高齢者の多様な社会参加を促進し、活動の場や活躍の機会の提供に努める必要がある。	通いの場の充実	通いの場の拡充 計画箇所数(か所/年) (R2) (R3) (R4) (R5) 15 18 26 34 ・通いの場の活動を充実する取組を進める。 ※(R2)については実績数	通いの場の実施箇所数 R3.9月末:17か所 R4.3月末:15か所(休止1か所除く)	△	3か所の通いの場を新設・把握することができたが、新型コロナウイルス感染症の影響により1か所解散、1か所1年以上の休止となり、数値目標は達成できなかった。 一方、介護予防・フレイル予防推進員、地域包括支援センター、リハビリ専門職と連携し、通いの場に対し、健康チェック又は体力測定を実施し、フレイル等のチェックをするとともに参加者の年齢構成等の把握を行い、健康相談・健康講話を行うなど活動の充実を行った。また、1層・2層の生活支援コーディネートと協力し、アンケート内容から通いの場の立ち上げに向けた戦略策定を行った。	<課題> 新型コロナウイルス感染症対策を実施した上での、通いの場の運営支援が必要になる。また、新型コロナウイルス感染症の状況を考慮し、通いの場の立ち上げ支援を実施していく必要がある。 <対応策> 引き続き、新型コロナウイルス感染症対策を実施した通いの場の運営支援を継続する。アンケート調査等を参考に、新型コロナウイルス感染症の状況を考慮しながら、通いの場の立ち上げ支援を実施する。また、通いの場の活動状況を引き続き把握しながら、参加者に合わせた活動を充実するための支援を実施する。
給付適正化	介護サービス利用者に対して、自立支援に資する適切なサービスが提供されるためには、介護支援専門員の質の向上が求められている。このため、町内外の事業所に対しケアプラン点検を実施する必要がある。	ケアマネジメントの充実	町外の居宅会議支援事業所のケアプラン点検数 計画箇所数 (R2) (R3) (R4) (R5) 1 1 2 3 ※(R2)については実績数	令和3年度のケアプラン点検は、新型コロナウイルスの影響により、対面形式での実施はできなかったが、町内9事業所と町外1事業所に対して書面により実施した。実施内容は、提出されたケアプランについて、主任介護支援専門員からの助言・指摘事項等照会を通じて指導を行った。	△	新型コロナの感染拡大防止により、対面形式での実施ができなかったが、主任介護支援専門員の協力により、自立支援に資するケアマネジメントについての気づきを促し、ケアプランの質の向上に努めた。	<課題> ケアプラン点検は、主任介護支援専門員の協力により実施しているが、点検者側が共通した理解のもと、適切に指導・助言等ができるかが課題である。 <対応策> 点検者側が適正に指導・助言できるよう、主任介護支援専門員と情報共有等しながら連携して進めていく必要がある。